

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立和知中学校 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	中学1年生14名、2年生11名、3年生16名 計41名 保護者・教職員・行政関係 計38名 総計79名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名（PTA親子人権講演会・ワークショップ） ② その他（部活動）
4 目標 (ねらい)	パラスポーツについての学習やワークショップを通じて、多様な価値観を持つことや広い視野でものごとを見たり、考えたりすることの大切さについて親子で学ぶ機会とする。
5 取組内容	事前活動：令和3年11月18日（木） フリースポーツ部によるボッチャ事前体験及び当日の運営打ち合わせ（京丹波町教育委員会社会教育課による指導含む） 講演当日：11月20日（土）10時40分～12時30分 親子人権学習・ワークショップ 演題 「ボッチャで心も頭も身体も熱く！」 ワークショップ・・・ボッチャ体験 講師 京都先端科学大学 健康医療学部 健康スポーツ学科 青木 好子先生、サポートスタッフ2名 事後学習：公演後、学習のまとめ（各学級） (1) 取組の計画 本事業の計画に当たり、3年前から取り組んだ、海外から来られる人々に対するおもてなしの心のあり方、異なる価値観や文化に対する理解、異文化理解やジェンダーフリーの学習、昨年度実施した手話を通じたパラリンピックの価値に関する学習を踏まえ、本年度実施されたパラリンピックを受けて、その価値や実際の体験を行うことで、学習効果を最大限得られる内容を考え、障がいスポーツの専門家による講演及びワークショップを計画した。 講師の京都先端科学大学健康スポーツ学科の青木先生には、事前に校長自らが学校の様子やつけたい力について打ち合わせさせていただき、当日までに綿密な連携を取りながら準備を進めることができた。今回体験の中心とした「ボッチャ」は多くの参加者がパラリンピックを見て予備知識はあったものの、コート作りやルールなどは未経験だったため、町の社会教育課に協力を依頼し、ボッチャのセットを借り受けるとともにフリースポーツ部の活動と併せて直接指導いただいた。

	<p>(2) 当日の様子</p> <p>講師の青木先生には、スタッフ2名をサポートメンバーとしてご準備いただき、参加者ができる限りたくさん体験ができるよう、ご配慮いただいた。夏にオリンピック・パラリンピックが開催されたこともあり、生徒や保護者もこれまで以上にその価値については意識が高くなっている様子もあり、事前の講演ではクイズ形式で様々なパラスポーツを紹介いただいたり、名場面集を見せていただいたりしても反応もよく、ボッチャの体験を心待ちにしている様子も見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ワークショップでは、フリースポーツ部のメンバーがコート作りや実演などの役割を担い、実際の体験でも活動の中心となった。</p> <p>体育館全体を使って8コートを準備し、全校生徒を縦割り集団を元にして18チームを編成し、そこに保護者も入る形で異年齢集団と保護者の混合チームで対戦を行った。試合順や結果の提示等は、本年度より導入された iPad を使い、さらに生徒全員も自分の端末で試合の様子を撮影し、振り返り時にベストショット集として全員で鑑賞した。またワークショップ後の振り返りも「ロイロノート」で提出するなど、ICT機器の活用も意識して実施した。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>オリンピック・パラリンピックの社会的な盛り上がりや、学校での学びにつなげることができ、パラスポーツの意義や多様性の享受という人権意識の高揚を、楽しみながら自然に学ぶことができる機会となった。また、親子での開催ということもあり、さらにその意義を広めることもできた。参加した保護者も楽しみながらボッチャの体験をすることでできたと感想を寄せていただくなど、多方面での効果を実感できた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>パラリンピックで広く知られたり、話題となった競技をワークショップに取り入れることにより、興味を持ちながら前向きな気持ちで参加できるよう意識した。また、講師との連携の中で講演部分を短時間にして、体験に時間をかけることや会場や準備物の工夫で参加者全員が十分に体験できるよう計画した。また、より楽しみながらできるよう、ゲーム形式にするなどの工夫もした。</p>

8 主な課題等	<p>学校での人権学習においてもポイントとなるのが、実施した時には一定認識や意識は高まるものの、学んだことや体験したことを日常的に定着させていくことが難しい点にある。特に本年度はオリンピック・パラリンピックが実施されたことでのムーブメントは大きく、本事業の成功にはもっともよいタイミングではあるが、今後の学習活動等でさらに継続・発展させていくための教職員側の意識作りやしくみ作りが求められる。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>道徳教育や人権教育、さらには総合的な学習の時間等の推進の中で、オリンピック・パラリンピックの理念や意義等を学ぶ機会を検討するなど、継続した学習活動になるよう計画していく。</p> <p>また、PTA人権教育部とも連携し、取組が単発に終わらないように進めていく。</p>